

The World Association for Waterborne Transport Infrastructure

PIANC-Japan 国際航路協会日本部会



Newsletter August 2022 (Vol.22-2)

PIANC日本部会の 2022年度前半の活動について

1. 会長メッセージ



2022年度は、3年ぶりに本部、日本部会とも対面での PIANC 活動を再開することができました。2022年6月、年次総会（AGA）がベルギーのリエージュで開かれ、対面とオンラインのハイブリッド形式で行われました。日本を含む18か国から50人近くが対面で会議に参加し、PIANC 活動の正常化の第一歩を踏み出しました。日本部会においては、6月に総会、意見交換会を対面で開催することができました。

一方オンラインのイベントとして、日本、タイ、バングラデシュの講師をお迎えして、日本部会主催で2回目となる PIANC アジアセミナーを5月に開催し、海外17か国を含め、国内外から多くの参加を得ることができました。国土交通省、農林水産省、JICA から後援をいただいたほか、日本部会会員有志から多大のご協力をいただき成功裏にセミナーを開催できたことに、厚くお礼申し上げます。

内外の技術者のネットワーキングは PIANC 活動の重要な要素ですので、日本部会としては、これからも内外でのネットワーキングの場づくりに努めてまいります。

2022年8月

日本部会会長 岡田光彦



2. 2022年度の主な活動(4月～8月)

1) 2022年 AGA への参加(ハイブリット)

2022年6月1日、PIANC の各国部会事務局長会議及び第86回評議会が、ベルギーのリエージュにて対面・オンラインのハイブリット形式で開催されました。

我が国からは、岡田 PIANC 副会長、国土交通省港湾局の(当時)田中国際調整官(主席代表代理)が現地で出席したほか、PIANC-Japan より鈴木事務局長、国土交通省港湾局の前田課長補佐、水産庁の粕谷課長補佐がオンラインで出席しました。



2) PIANC 日本部会、理事会・総会・意見交換会の開催

6月15日第53回理事会が麹町朝日ビル5階で開催され、引き続き、第49回総会がグラウンドアーク半蔵門華の間で開催されました。

引き続き、意見交換会が着席にて行われました。席上では、アジアセミナー報告、AGA出席報告が行われた他、久しぶりの会員同士の情報交換が活発行われました。閉会前には、20年間理事を務められた川嶋顧問より心のこもったご挨拶をいただきました。

コロナ感染症対策に十分配慮しての実施となりましたが、3年ぶりの意見交換会ということで、会員同士の交流が図られたものと、考えております。





3) 委員会活動、WG 活動の充実

・委員の交代

レクリエーション委員会 (RecCom) 日本代表委員が山下雅人様 ((一社) マリーナビーチ協会) 様から池田直太様 (いであ (株)) に交代いたしました。

山下様には 2014年2月から8年間委員をお願いし、フランダース、ブエノスアイレス、リヨンなどでの多くの会議のご出席いただきました。

・新たに以下の WG の報告書が本部より公開されました。

MarCom	WG145	Berthing velocity analysis of seagoing vessels over 30,000 dwt (2022)
	WG194	A Framework for Early Contractor Involvement in Infrastructure Projects
PTGCC :	Technical Note 1:	Managing Climate Change Uncertainties in Selecting, Designing and Evaluating Options for Resilient Navigation Infrastructure (2022)

・2022 年後新たに発足した wg は以下の通りです。

MarCom	WG243	Design, Maintenance and Sustainability of Container Terminal Pavement
InCom	WG241	Handling Accidents and Calamities in Navigation Hydraulic Structures
	WG242	Permanent floating houses along the river infrastructures



4) オンラインを活用した活動 (PIANC アジアセミナー)

2022年5月27日に日本部会主催により標記のセミナーを開催いたしました。今回は、港湾海洋構造物のうちコンクリート構造物の維持・管理・補修問題をとりあげ、アジアの第一級の研究者・専門家による講演としました。約280名、17か国からの参加を得ることが出来ました。その内、約80名が海外からの参加となり(主な参加国:フィリピン、カンボジア、バングラデシュ、ミャンマー、インドネシア)国際的な情報発信として大きな成果を上げました。



3. 2022年度の活動について

1) 2022年日本部会主要予定行事

- 10月18日~21日 SMART RIVERS 2022 (南京:ハイブリット)
- 国内向けオンラインセミナー
 - ・10月19日開催予定です。国内の最新情報、WG報告などを皆様にお届けする予定です。近々連絡させていただきます。
- 継続して委員会・WG活動への参加を行います。
- YP オンラインセミナーシリーズの開催を予定しています。

今後の開催情報は
随時 YP ホームページ
に掲載予定です。

4. 活動記録

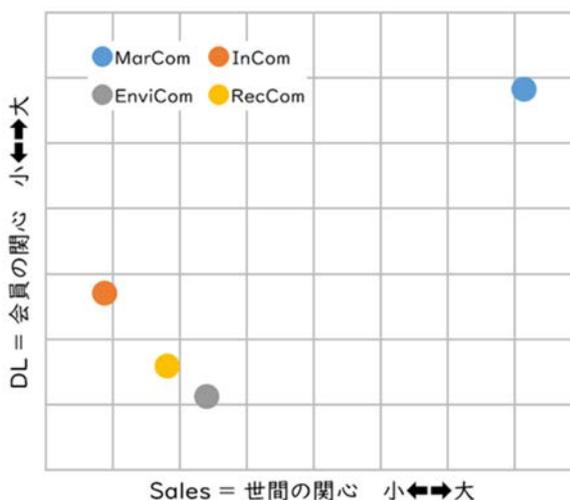
最近の InCom の活動について

株式会社ニュージェック 執行役員 角野隆

昨年、コロナの影響で開催が延期された Smart Rivers が本年10月19日から21日、南京市において開催されます。Smart Rivers は、2年に一度開催される内陸水運に関する国際会議で、InCom の最大イベントです。過去においては、我が国は Smart Rivers に必ずしも高い関心を寄せてきた訳ではありませんが、今回はアジアで初めての開催であり、我が国が河口港や、海外の河川港の整備を通じて培ってきた高い技術を知らしめる重要な機会となることから、日本の7グループから論文の提出があり、全てが採択されています。論文を提出していただいたのは、港空研、地方整備局、大学、マリコン、ブロックメーカー、コンサルタントといった多彩な機関の方々で、会議における議論を大いに盛り上げていただけるものと期待しております。

次に WG の活動状況です。これまでも、InCom が所管する WG について、参画していただいているところですが、多くは MarCom 等との共管の WG でした。InCom 単独の WG に我が国からの参画はしばらくありませんでしたが、2021年に設置された WG236「航行可能な自然河川の持続可能な管理」には、港空研の中川さんに参画していただいています。この WG は各国の関心が高く、欧米のほか、南米、中国などからも多くの参加を得ています。我が国のシルテーション等に関する技術が報告に反映されていくものと期待しております。

最後に話題提供です。鈴木事務局長から WG 報告の売上についてのデータの提供を受けましたので、分析してみました。下図の縦軸は各 COM 所管の WG 報告の会員によるダウンロード数、横軸は WG 報告の売上部数です。縦軸は各 COM に対する会員の関心、横軸は世間全般の関心を示すものとも考えることができます。世間の関心、会員の関心ともに高いのが MarCom であることは想像に難くないところです。RecCom、EnviCom は WG の件数が少ないので MarCom と単純に比較できませんが、世間受け、身内受けのバランスは MarCom とほぼ同様であることが読み取れます。そして InCom です。WG の本数はそれほど少ないのですが、報告書の売上は MarCom の一割程度で、RecCom や EnviCom よりも少なく、世間的な関心は今一つといったところです。一方で会員による WG 報告のダウンロード数は MarCom の半数近くと健闘しています。このように InCom は、老舗の COM として PIANC コミュニティの中において存在感を維持していることを読み取ることができるかと思います。



【デザイン:木崎由香(日建工学株)】